

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.61 December 2018

第4回研究会を開催 11月22日(木)

第4回研究会は、千里山キャンパス内 校友・父母会館2階会議室において29名の会員・機構研究員が参加し、大変活気ある研究会となりました。

今回の研究会では、パナソニック株式会社ナレッジサービス推進室 斉藤 猛様と環境都市工学部 荒木貞夫准教授による講演会を行いました。

また今回は、本振興会会員同士の交流の深化を目的に、会員企業のPRの機会を設けました。会員企業3社によるPRは、本振興会会員にとりましても、会員企業を知る絶好の機会となりました。

1 講演「働き方改革＝生産性向上＋人材育成＋ α ～企業が生き残るための「今、すべきこと」～ パナソニック株式会社 ナレッジサービス推進室 営業総括 斉藤 猛 氏



パナソニック株式会社 ナレッジサービス推進室は、同社の歴史で培った様々なノウハウを活かして現場改善に資するサービスを提供される部門です。同部署の斉藤猛様より、働き方改革や生き残る企業の観点でご講演をいただきました。本講演は西村会長のご推挙により実現したものです。

最近、人を雇うことが難しくなってきました。働こうとする人に魅力ある企業として生き残るため大きく3つのテーマでお話をいただきました。第1のテーマ「アウトプットを上げよう」では、徹底したムダ取りの話がされました。いろいろな動作がムダになる、ご紹介の一つ一つが目からウ

ロロのご指摘でした。工場1日診断のご指導もされています。第2のテーマ「社員の能力を引き出そう」では、経営理念と人材育成の大切さについてお話されました。「ものをつくる前に人をつくる」が同社の人材育成の考え方です。第3のテーマ「ホワイトな素晴らしい会社にする」では、連携されているホワイト財団による「ホワイト企業認定」のご紹介がありました。

以上のように、人口減少の日本でいかに生き残るかを、儲ける・人材・ホワイトの観点でまとめられ、盛りだくさんの内容であるのにあっという間に時間がたった、経営に参考になるお話でした。

2 講演「環境負荷低減を目指した新技術 —高機能無機膜の開発とその実用化展開— 関西大学 環境都市工学部 准教授 荒木 貞夫 氏

関西大学環境都市工学部エネルギー・環境工学科 荒木准教授より、「環境負荷低減を目指した新技術—高機能無機膜の開発とその実用化展開—」と題して、環境のグリーン化に関して、先生が精力的に進められている最先端の研究成果をご紹介頂きました。

ご説明頂いた話題は2テーマあり、地球温暖化問題に重要なCO₂に対して高効率分離を目指したゼオライト膜（多孔質アルミノケイ酸塩）の開発、並びに疎水性シリカ膜（疎水処理をしたナノシリカ材）の開発です。

前者の材料ではCHA型に着目されて、メタンや窒素などを高効率に分離できることを紹介されました。CHA型ゼオライト膜は高い耐熱性、耐薬品性を持つため、広汎な用途への適用が期待されます。

また後者では、水中に含まれる微量有機物の浸透気化分離や水素／トルエンの混合ガスよりトルエンの分離に成功している具体的事例を丁寧に説明されました。特に、水素／トルエンの分離は水素エネルギー社会への貢献だけでなく、トルエン以外の揮発性有機ガス等への応用も期待できることを解説されていました。

参加者は次世代のエコ・グリーン技術として興味深く拝聴する様子が伺え、講演後、分離メカニズムや材料性能に関する質問が寄せられていました。



3 会員企業のPR

(1) 株式会社オンセック

代表取締役社長 大西健一郎様より、企業紹介をして頂きました。

(株)オンセックは平成元年に創立し、大西電気工業株式会社(創業70年)のマーケティングと調達を担う、言わばブレーンの会社です。その中でも、船舶用送風機を軸にして、発電機・電動機・ポンプ・送風機など各種回転機の製造からメンテナンスに至るまで様々な事業を展開されています。

若い大西社長は、更なる企業成長を目指して、営業業務と技術・工場業務の役割の明確化や、積極的な業務提携による優秀な人材確保などを推進し、常にベストエンジニアリングソリューションを提供できる企業へと将来ビジョンを力強くご説明されていたことが大変印象的でした。



(2) 株式会社太洋工作所



第1事業開発部の鶴脊博央様より、会社概要をご説明頂きました。

(株)太洋工作所(昭和14年設立)は、社会環境の変化が業績に影響を与えた時期があったものの、順調に成長しておられます。

その核となる事業は「メッキ」事業です。各種製品の中でも、特にプラスチック上に光沢/半光沢サテン調メッキや2色成形メッキなどを施した製品は、車載内装部品や電子機器部品に採用され高い評価を受けています。また、電子機器の小型化で重要な高密度実装基板において、スルーホールメッキでは業界No.1の技術力を誇っています。

鶴脊様の企業PR後、参加者から「我々の身近な工業製品、車載製品でのメッキの重要性とそれを支える技術進化への企業努力に改めて感心した」との感想が述べられていました。

(3) 株式会社竹中製作所

副社長の小原正樹様よりご説明を頂きました。竹中製作所は昭和10年の創業で、当初は安価なボルトなどの大量生産メーカーでしたが、オイルショックを契機にどこにもできない差別化商品を扱うメーカーになったとのことです。

事業分野としては、①原子力容器にも使われる高品質のボルトナット事業、②防錆防蝕に優れたタケコートなどの表面処理事業、③パワーエレクトロニクスの電子機器事業があります。最近ではダンスをするロボットも手がけておられます。

ご説明をうかがい、優れたものづくり技術力の企業だと感じ取ることができました。



アンケート集計結果

今回は13件の回答を得ました。研究会の内容については、参加者の方から「参考になった」23%、「やや参考になった」54%の回答をいただきました。「興味深い」「やや興味深い」も合わせて54%、研究会の長さについては「ちょうど良い」が77%でした。

また、「関心のある技術分野」については、「ものづくり・加工」「医療・福祉」「素材・材料」との回答が多く、「知りたい情報」については、「研究者の研究内容・専門分野」「シンポジウム、セミナー、発表会などの情報」「実用化が期待される研究成果」との回答が多くありました。

これらの結果を、今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>
関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力してください

ASCIKU 関西大学科学技術振興会
Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University